

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要【本通小】

国語

本校の概要

【内容】

- [知識及び技能]の「情報の扱い方に関する事項」が、全国平均よりも上回る正答率である。
- [思考力・判断力・表現力等]の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、[知識及び技能]の「我が国の言語文化に関する事項」の全てで、全国平均よりも下回る正答率である。
- ・「話すこと・聞くこと」では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することについて、全国平均を下回っている。
- ・「読むこと」では、登場人物の相互関係や心情などについて描写をもとに捉えることについて、全国平均を下回る。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことが、全国平均を下回っている。
- ・いずれも、選択式の問題における無回答の割合が全国平均よりやや多い。

今回の調査における課題

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えること。
- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

改善の方向

- 伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導していく。
また、学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することのよさを考えられるようにする。
- 物語の登場人物や場面の情景を考える読解の時間を増やし、描写をもとに物語全体を捉える力を養う。
- 読書活動を推進し、様々な本や文書を読むことで、言葉の美しさや文化の深さに触れ、日本語への関心を深められるようにする。

算数

本校の概要

【領域】

- 「数と計算」
全国平均を下回っている。
- 「図形」
全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「変化と関係」
全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「データの活用」
全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。
- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。

改善の方向

- 問題を数直線や図にして考え、用いる演算を判断したり、数量関係を捉えたりする活動を充実させる。
- 課題解決的な学習をすることで、求め方を考察し、言語化することを大切にする。
- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする。

学習状況調査 学校や家庭の「学習」の様子について

【国語】⇒好きと感じていて、授業の内容がよく分かると答えている子が多い。

○登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、表現に着目している子の割合が高い。

△目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫している子の割合が低い。

【算数】⇒好きと感じている子も、そうではない子の割合も全国より高いが、授業内容は理解できている子が多い。

○問題を解くときに、あきらめずに考えたり、別の解き方を考えたりしている子の割合が高い。

○今後の学習に活用しようとする意識の高さもうかがえる。

【理科】⇒好きと感じている子の割合が全国より高い。

○理科に関する疑問をもったり、問題を見いだしたりしている子の割合が高い。

○自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている子が多い。

【英語】⇒好きだと感じている子の割合が全国より高い。

△「大切だと思うか」という質問、「授業内容がよく分かるか」という質問に否定的な回答をした子の割合が高い。

【学習全般】

・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると感じている子の割合が全国より高い。

・授業で使用しているタブレットについては、楽しみながら自分のペースで学習を進めることができるというよさを感じている児童が多い一方で、友達と考えを共有・比較したり、協力して学習を進めることができるというよさを感じている児童は全国に比べ少ない。

・学校での授業時間以外に、学習をする時間は、平日・休日ともに本校が推奨する「学年×10分(6年生は1時間)」は学習できている子が多い。

学習状況調査 学校や家庭の「生活」の様子について

△「自分にはよいところがある」と答えた子の割合は、全国より低い。

△「学校に行くのは楽しいと思うか」という質問に否定的な回答をした子の割合が、全国より高い。

○携帯電話・スマートフォンやコンピューターを使って学習したり、楽しんだりする時間が適切で、家庭での約束をきちんと守って使っていると答えた子の割合が、全国より高い。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に、「当てはまる／どちらかといえば、当てはまる」と答えた子の割合が全国より高い。



本校の調査結果から、全国や北海道の割合と比べて「肯定的な回答が多いもの」と「肯定的な回答が少ないもの」を抽出しました。調査結果から、本校の児童は、楽しみながら学習をしていて、授業内容の理解に困っている様子はあまり見られませんが、自己肯定感が低く、学校に行くことを楽しめていない子が多いという課題もありました。

今後は、学校として、児童が自分に自信をもち、学校生活をもっと楽しめるような取組を行っていきます。例えば、スモールステップでの目標を設定し、ポジティブな声掛けをしていくことで、児童が達成感を得られるようにしたり、児童が困った時に安心して相談できるよう、定期的に相談の時間を設けたりします。また、授業では、児童が主体的に参加できる活動を増やし、学ぶ楽しさを感じられるような環境づくりに努めます。